

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890101342
法人名	社会福祉法人 砥部寿会
事業所名	グループホーム里山
所在地	愛媛県松山市鷹子町乙402-9
自己評価作成日	平成28年10月31日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境の中で認知症ケア専門の職員と認知症の方が共に生活をし、地域の中で最後まで安心して暮らせるよう支援しています。そして、当ホームの自慢は、栄養士が立てた献立をもとに、職員とご利用者が作る家庭的な料理やおやつとなります。また、医療・看護・リハビリにおいては多職種・多事業所との連携により、重度化の対応や生活のサポート体制を強化しております。・鷹子運動公園が目の前にあり、窓からは春には桜、冬には紅葉が楽しめます。・居室には、思い出の品、大切にしている物やなじみの家具などを自由に持ち込めます。・一人ひとりの生活(ライフスタイル)やご本人のペースを大事にゆったり暮らせます。・家と同じように、食事や洗濯、掃除などのできる家事は、職員と共にいたします。・面会時間はなく、ご家族や友人、地域の方やボランティアなどの訪問を歓迎します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近くの公園で行われる地域の祭りに参加したり、小学校の課外授業時には、トイレを貸している。小・中・高・専門学校・短大の体験学習や実習、ボランティアを受け入れている。町内の一斉川掃除には職員が参加している。又、火・土曜日には、松山市が取り組む「プチ美化活動」を行う日と決めており、利用者や職員で散歩しながらごみを拾っている。
主治医のほかに、眼科や歯科、訪問看護師や薬剤師、理学療法士等、言語聴覚士等が、それぞれ専門分野から利用者の健康管理等を行っている。歯科の協力を得て、利用者全員について口腔状態を調べて栄養アセスメントを行っており、食事形態が改善している。又、毎週、薬剤師がかかわり、薬の管理を行っており、安定剤等の減薬に取り組み、生活が改善しているような事例が複数ある。
食事状態が改善した利用者の中には、本人の希望をもとに、焼肉を食べに行けるよう支援した事例がある。おいしい肉を残さず食べて満足されたようで、その後も「おいしかった」と、よく話されるようだ。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目: 11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目: 28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム里山

(ユニット名) 1階ユニット

記入者(管理者)

氏名 小椋 真吾

評価完了日 平成28年10月31日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>(自己評価) 法人の理念を研修会で共有、事業所理念に関しては、各ユニットに掲げ、朝礼にて唱和し意識付けをしている。</p> <p>(外部評価) 平成28年4月の事業所開設時に、法人理念に基づき「お一人お一人を大切に、共にその人らしい暮らしを支えます。」と事業所理念をつくっている。事業所理念をもとに、「つながりを大事にし、地域で暮らし続ける事を支えます。」等、基本方針3項目をつくっている。まずは、内部研修に取り組んでおり、職員が認知症ケア等について勉強する機会を作っている。次に、理念を理解し実践していけるよう取り組むことを計画している。</p>	
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>(自己評価) 日常の散歩、週2回の松山市エコ美化活動、地域の行事(鷹子町内会の運動会や盆踊り大会、地方祭) 運営推進会議や行事、(消防訓練)を通じて地域の方々との関係作りを大切にしている。また、松山市小野 久米地区の小野久米ネットやグループホーム連絡会を通じて、近隣の施設との交流も行っている。</p> <p>(外部評価) 基本方針に「地域で暮らし続けることを支える」ことを挙げている。近くの公園で行われる地域の祭りに参加したり、小学校の課外授業時には、トイレを貸している。小・中・高・専門学校・短大の体験学習や実習、ボランティアを受け入れている。町内の一斉川掃除には職員が参加している。又、火・土曜日には、松山市が取り組む「プチ美化活動」を行う日と決めており、利用者と職員で散歩しながらごみを拾っている。12月には、幼稚園を訪問して一緒に餅つきを行う計画がある。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>(自己評価) 事業所の力を活用し、まもるくんの家、子育て協力店、松山市シニアまもるくん、松山市エコ美化活動などに協力をしています。また、人的資源を活用し、地域の認知症の方の相談、久米地区高齢者学級での認知症予防の講演や愛媛県在宅介護研修センターの出前講座や主催講座などへの協力もしています。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価)	ホームでの活動内容、利用状況を運営推進会議で報告・話し合いを行い、そこで得た意見をもとにサービスの向上に繋げるようにしている。	
			(外部評価)	会議は、利用者、家族、公民館長、民生委員、他事業所等が参加しており、地区の土地改良区集会所で2ヶ月に1回、最終水曜日を目安に開催している。家族には、会議案内を毎月送付する書類に同封しており、認知症サポーター養成講座を行った際には、7名の参加があった。次回の会議時には、歯科医を招き、歯周病予防についての講話を予定している。そのような取り組みを今後は、介護教室の取り組みにつなげていきたいと考えていた。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価)	運営推進会議に訪問していただき、直接ご本人、職員と話す機会を作っている。シニアまもるくんや認知症サポーター養成講座を通じて、意見交換などを行っている。また、生活保護受給者に関しても、生活福祉課担当者と状況の連絡を密にとっている。	
			(外部評価)	管理者は、久米地区高齢者学級「認知症予防」の講演に協力する等、市内外で行政等と協働して認知症の理解や協力に向けて積極的に取り組んでいる。又、松山市が取り組む「子育て協力店」「シニアまもる君の家」に登録し協力をしている。地区の事業所ネットワークの集まりに参加して同業者と交流を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価)	ご本人中心のケアに関する考え方や高齢者虐待防止システムの虐待研修により身体拘束の知識や考え方を職員が学んでいる。認知症の方の気持ちに寄り添い、その方に合った支援を行う事で、ご本人の不安をなくすようなケアを行っている。また、玄関は夜間を除き施錠せず、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
			(外部評価)	身体拘束、虐待について内部研修を行い、職員が意識を同じにして実践できるように取り組みをすすめている。以前、車いすの安全ベルトを使用していた利用者については、状態を観察してベルトを付けずに過ごせるように支援している。さらに、今後は、家族も身体拘束や拘束をすることでの弊害について学べるような機会を作ってはどうだろうか。家族とも意識を同じにして、協力し合えるよう取り組みをすすめてほしい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 接遇の研修や高齢者虐待防止システムを導入した虐待の研修を行い、言葉掛けの方法をお互いに学び、職員全体のレベルアップに努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者は、日頃から日常生活自立支援事業や成年後見制度の利用に関する相談を受け支援しているが、職員が理解するには至っていない。今後は、職員が学ぶ機会を設けると共に、事業所において必要な方の支援をしていくようにしたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には、ご本人やご家族の不安がないよう、納得していただけるまで説明を行っている。ご本人の要望をできる限り叶えられるよう、会話を大切にしている。ご家族の要望もお聞きし、できる限り叶えられるようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご本人が、行きたい場所、やりたい事、食べたいもの等の要望を聞き実現できるようにしている。また、ご家族の方への行事の参加も案内し、できる限り参加して頂いている。県外のご家族には、電話で日々の生活の様子をお伝えしている。 (外部評価) 4月の事業所開設時には家族会を開き、運営等について説明を行い、質問等を受けた。今後も、変更点があれば随時開催する予定である。毎月、介護計画のモニタリング表「援助計画チェック表」を送付しており、体調変化時等には随時連絡を行っている。家族は、相談時に専門家としてのアドバイスを受けることができることを心強く思っている。	今回の家族アンケート結果等も参考にして、家族への情報提供の取り組みについて工夫してはどうだろうか。家族の安心や信頼関係づくりにつなげてほしい。家族は「共に支え合う」ケアパートナーでもあり、又、認知症サポーターも受講していることから、今後は、一緒に活動できるような場面作りにも工夫してはどうだろうか。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>(自己評価) 毎月第3水曜日に職員会を行い、1階、2階各ユニットで情報交換をしたり、管理者と職員が話し合える場を作っている。(3分間対話)</p> <p>(外部評価) 今年4月から計画を立て、内部研修に取り組んでいる。又、職員が困っていること等も踏まえて「移乗、移動介助の仕方」等について研修内容に採り入れている。さらに、管理者は、現場で実際にケアを見せながら指導している。3分間対話の取り組みとして、事前に職員にアンケートを取り、それをもとにして話を聞き取っている。「手荒れする」という職員からの声で、洗い物用手袋を整備する等、職員が気持ちよく働けるような環境作りにつなげている。</p>	<p>職員は前法人から移行して勤務を続けていることを踏まえて、研修を重ねる取り組みと共に、ミーティング等で職員が意見や提案等を気軽に、又、活発に出せるような取り組み等も期待される。職員個々が「利用者にとってどうか」という視点でケアを振り返ったり、取り組みについて話し合う機会を積極的に持ってほしい。</p>
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>(自己評価) 人事考課を定期的に行い、就業状態やケアに関する評価や職員の努力、これからの目標などを評価し、給与などに反映できるようにしている。職員に目標設定をしてもらい、それを意識しながら実践できるよう努めている。</p>	
13		<p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>(自己評価) 毎月第3水曜日に事業所内研修会を実施し、その研修内容は、学びたい研修の希望を取り研修に生かしている。また、積極的に外部講師を招いたり外部研修を受講するときには、受講費用の全額負担や時間外手当の支給をしたりすることにより、積極的に参加できるよう促している。</p>	
14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>(自己評価) 近隣事業所を運営推進会議に招いたり、小野久米地区の交流会に参加したりし、地域の同業者を中心にお互いの職員の交流やケアの質向上に努めている。</p>	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価) 一人一人の性格、こだわり、趣味等を把握したり、過去に使用していた品等を持参して馴染みの生活ができるよう支援している。入居時は、職員と事前に訪問することにより、信頼していただけるよう心がけている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族との情報交換を面会時や電話でその都度行い、入居者様ひとり一人の性格や、こだわり、趣味を把握したり、昔使用していた物を持参して馴染の生活ができるように支援している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 短期利用型を活用して、入居体験や初期の情報収集を行えるようにしている。また、各担当職員が中心となり、ご本人の思いやご家族の思いなどを密に聴くことにより、それに応じたサービス提供を行なえるようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ご本人と一緒に料理や洗濯作業をしたり、趣味、楽しみを一緒に行ったりすることにより、共に生活する関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) イベント外出時、ご家族に連絡をし参加出来るときには一緒に参加して頂き、ご本人と共に過ごす時間を作っていただくようにしている。また、面会時に話しをする時間を頂き、情報交換等を行っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地域への散歩、地域の行事を参加して馴染の方と出会う機会を継続している。また、友人や馴染のお店などに足を運ぶようにしている。	
			(外部評価) 基本方針に「つながりを大事にする」ことを挙げている。誕生日には、本人が行きたいところに行けるように支援しており、他利用者も数名誘って、故郷や寺参り等に出かけている。8月には、東温市に昔懐かしいアイスキャンデーを食べに出かけた。12月には、絵手紙教室のボランティアの訪問が予定されており、それぞれが年賀状をつくり、家族等に出せるよう支援する計画がある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ホールでの座る位置等を考えて会話が出来る様に配慮している。また、状況により職員が間に入り、コミュニケーション支援を行うよう努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去先の施設との情報交換や必要であれば情報提供を行っている。また、ご家族には退去に伴う不安の聴取や退去後も相談に乗れることを伝えている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ご本人やご家族とコミュニケーションを取り、暮らし方の希望や思いを聴き取っている。日常の状態を観察したり、生活歴や趣味や特技、職歴やその他の情報、職員の意見等を勘案して意向の把握に繋げている。 (外部評価) 基本方針に「ご本人中心のケアを行う」ことを挙げている。傾聴ボランティアを受け入れており、利用者の話を聞いてくれている。4月から順次、利用者についての情報を家族に聞き取り、アセスメントシートに整理している。家族によっては、入居前の自宅での状況を写真で見せてくれることもある。必要時には、24時間シートを使用して、傾向を探る取り組みを行っている。食事状態が改善した利用者の中には、本人の希望をもとに、焼肉を食べに行けるよう支援した事例がある。おいしい肉を残さず食べて満足されたようで、その後も「おいしかった」と、よく話されるようだ。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所前に面談を行いご本人・ご家族から話を聞いている。また、これまでにサービスを利用している場合は、施設や病院の相談員や職員、居宅介護支援事業者などの担当の介護支援専門員から情報の提供を受けて把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ご本人の表情や言葉を観察し、必要に応じてセンター方式24時間シートを活用して情報の把握と共有に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ご本人やご家族の意見を取り入れ、担当職員が参加し介護計画を作成している。一日の終わりに、日次モニタリングを行い、月末にはその月の評価を行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者が「何をしたいか」「やってみたいこと」を支援できるように計画を作成している。花が好きな方には、花瓶を買いに出かけたり、花を活けたりできるよう支援する計画があった。計画内容を個別日課計画表に反映して、個別の生活リズムや活動、病院受診等のスケジュールをつくり、共有できるように工夫している。朝の申し送り時にカンファレンスを行っており、又、事故発生時等には都度話し合う場を持っている。「援助計画チェック表」で毎日モニタリングを行い、1ヶ月で評価を行い、6ヶ月ごとの計画見直しにつなげている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>日々の生活のことだけではなく、具体的に記入、ご本人の言葉も記録に残し、職員が気付いたことも記録している。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ご本人やご家族の要望・必要性に応じて、訪問看護、内科、眼科、心療内科、歯科など多機関との連携や理学療法士、福祉用具専門相談員、歯科衛生士、言語聴覚士、管理栄養士、司法書士など、多職種との連携により支援ができる体制をとっている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>音楽が好きな人が多いためオカリナ演奏会を開催し、奏者に協力をしてもらい、入居者様も参加できる参加型の演奏会を開催した。また、12月には絵手紙の先生に来て頂き、本人が絵手紙の作成に参加し、家族や友人などとの年賀状のやり取りができるように支援を予定している。また、傾聴ボランティアの受け入れにより、ご本人が楽しく話す機会の創出を学ばせて頂いている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 主治医は、ご本人やご家族に選んで頂いている。定期的に訪問診療も行い、事前にfaxで状態の報告や相談をしている。必要に応じて電話での相談にも対応して頂いている。受診や往診の結果、薬の変更は、記録に残し職員間で共有している。</p> <p>(外部評価) 主治医のほかに、眼科や歯科、訪問看護師や薬剤師、理学療法士等、言語聴覚士等が、それぞれ専門分野から利用者の健康管理等を行っている。歯科の協力を得て、利用者全員について口腔状態を調べて栄養アセスメントを行っており、食事形態が改善している。又、毎週、薬剤師がかかわり、薬の管理を行っており、安定剤等の減薬に取り組み、生活が改善しているような事例が複数ある。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 24時間対応の訪問看護ステーションと契約し、週に1回の訪問時に状態を伝え相談している。また、ご本人に変化があった場合は、受診や医療の相談もしている。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価) 入院時はご本人の身体的・心理的な情報を的確に伝え、入院が円滑に行えるよう支援している。入院中も見舞いやご家族と電話での情報交換し、退院に向けての話し合いを行っている。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 重度になっても、今までと変わらない生活を継続できるよう支援している。入居時にご家族に看取りケアの方針について話し同意書を書いてもらっている。ご本人の急変が見られた場合、主治医・ご家族と話し合い、方針に沿ったケアができるよう職員間で情報共有している。</p> <p>(外部評価) 順次、家族に終末期の過ごし方についての希望を聞き取っている。利用者の状態変化時には、再度、確認して希望や状態に応じた支援に取り組んでいる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) その都度、急変時のミニ勉強会を行っている。状態の変化があった場合や、病院を受診した場合は、記録に残し、今後の対応に生かしている。常に救急病院や受け入れ先を全職員が把握できるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防設備の研修会や避難訓練を定期的に行っている。また、非常災害食の試食会や生活不活発化予防体操、シェイクアウト訓練などを取り入れ、全職員がいざという時に適切な行動がとれるよう努めている。 (外部評価) 年3回、(9月、12月、3月)訓練実施に取り組む計画がある。9月の避難訓練時は、消防署の協力を得て地震火災を想定して行った。又、消火器の使い方を習ったり、キッチンペーパーを使ったマスク作り等を行った。地域の方には事前に案内を配り、1名の参加を得ており、避難後の利用者の見守りをお願いした。	災害はいつどのような時に起こるかわからないことでもあり、いろいろな場面を想定して繰り返し行ってほしい。又、事業所の一部が土砂崩れの恐れがある区域に入ることもあり、今後は、いざという時に、地域の方達と協力し合えるような体制作りに取り組んでほしい。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 1人になれる時間も大切にし、プライバシーにも配慮している。また、接遇研修にて話し合いの場を設けて、言葉掛けや会話の際は、ご本人の自尊心に配慮できるように努めている。 (外部評価) 基本方針に、「ご本人の尊厳を大切にし、丁寧な言葉遣いと丁寧な対応で関わる」ことを挙げている。家族や地域、医療、ボランティアや地域資源等をつなげて、「共に支え合う」体制作りをすすめている。管理者やケアマネジャーは、職員と一緒にケアを行いながら指導しているが、対応や言葉かけに配慮が必要な場面も見受けられる。	さらに、理念や方針に沿った支援が実践できているか、職員がケアや対応について振り返ったり、点検したりできるような取り組みもすすめてはどうだろうか。職員が気付き改善していけるような取り組みの工夫が期待される。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 担当職員が日常生活の中から、1人ひとりの希望を聞き、随時対応できるようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりの生活リズムや、その日の希望、体調に合わせてながら充実した生活をして頂いている。職員側の都合を優先するのではなく、利用者様のペースに合わせて、その人らしい生活を支援していけるよう努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 身だしなみでは、ご本人に服を選んで頂きながら、季節に合った服を着て頂けるように支援している。女性の方には、部屋に鏡台を持ち込み、お化粧をする時間を作っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 嗜好品や好みを確認し、その方の誕生日やバイキングのメニューに取り入れ提供している。また、希望があれば職員と外食ができるように支援している。	さらに、利用者がおいしく食事ができるように、食事時の雰囲気や職員のかかわり方、対応等を工夫してほしい。又、「食事を楽しむ」という観点から、利用者の感想や職員の気付き等を記録して話し合う機会を持つてはどうだろうか。昼食後の歯磨きの必要性についても職員で話し合い、支援のあり方を検討してほしい。
			(外部評価) 法人の管理栄養士が立てた献立レシピのもと、食材購入を担当する職員が買い出しに行き、その日の担当職員が調理している。食器も新たにして、温かみのあるものを使用している。調査訪問時には、下膳する利用者の様子が見られた。昼食後には、夕食用食材の下ごしらえを行っている様子がみられた。毎週水曜日は、利用者のリクエストを反映したり、行事時にはバイキング形式の食事を採り入れたりしている。朝・夕食後は、歯磨きを支援しているが、昼食後は支援を行っていない。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 管理栄養士による献立や栄養評価を行っている。また、言語聴覚士による嚥下機能検査や歯科医による嚥下内視鏡検査を行い、食形態アップや水分粘度の調整を行っている。また、とろみ測定器を活用し、統一したとろみ水の提供ができるよう努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 歯ブラシ以外に必要な方にはフロッシングを利用してもらっていたり、訪問により歯科衛生士による定期的な口腔ケアや口腔指導、口腔リハビリテーションの支援を受けている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			必要な方には、声かけしてトイレを促したり、排泄チェックを行い、排尿の回数、時間を観察して、その方に応じた必要な支援を行っている。	
			(外部評価)	
			排泄チェック表をもとにして支援を行っている。トイレの扉はアコーディオンカーテンになっているが、今後は、戸に変更することを予定している。2ヶ所あるトイレについて、利用者それぞれ、どのトイレをよく使用するかを調べ、それぞれのトイレの認識に合わせて、「トイレ」「便所」と表示している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	
			身体を動かす機会を増やしたり、水分を多くのむようにしたりしている。また、入浴時や衣類交換時に腹部の張りを確認している。牛乳や繊維の多い食材や、バナナ、乳製品も意識的に取り入れている。	
			(外部評価)	
			入浴の声掛けをする際、今の時間帯が気分がすぐれない時は、希望を聞いたり、時間帯を変更したりしている。また、入浴時間、回数の調整を行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			利用者個々に、週2～3日に1回、入浴できるよう支援している。午前中、午後と可能で、個々の状態や希望を聞きながら支援している。浴槽のふちに手すりを付けたり、介助用具を用意し、利用者の力を使い、又、職員の負担軽減にも取り組んでいる。	
			(外部評価)	
			日中の活動を提供し、夜間の安眠につなげている。室温や布団調整などお行い、職員が話し相手となり、安眠の提供をしている。また、筋の緊張が強い方には、福祉用具専門相談員と相談をしながら、その方に合ったクッションやマットレスを選定し使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の変更があるときは、申し送りとノートを活用して、全職員が情報を共有している。服薬チェック板を使用し、誤薬、飲み忘れの防止に努めている。担当の薬剤師と連携し、薬に対する疑問や質問はその都度解決している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ご本人のこれまでの生活を大切に、今までされていた仕事や趣味など情報を集め、今できることは何かを考え、出来ることをして頂いている。またご家族にも協力して頂き、どんな事に興味をもたれていたかなど、その人を知ることで支援につなげている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ご本人に合った時間や積極性などを考慮して、入居者様が行きたい場所や必要なものを一緒に買いに行ったり、担当の職員が利用者様のしたい事を把握し、ご家族にも声をかけ実現できるようにしている。 (外部評価) 自由に使用できる車を整備したり、利用者個々に外出用の靴をそろえて、希望に沿った外出支援ができるように環境を作っている。4月には、近くの公園に出かけ、桜の木の下で花見ができるよう支援した。又、8月には浴衣を来て盆踊り大会に参加した。行事の折には、学生のボランティアの協力を得ている。法人内事業所の行事に参加したり、花を見に行く等、計画を立てて外出を支援している。そのような取り組みを重ね、現在は、利用者の方から、「今日は天気が良いからどこかに連れて行って」と希望することもあるようだ。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご家族との話し合いで、安心のため少額のお金をお持ちの方もいるが、事業所の立替で買い物をしているのが現状である。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご家族が遠方の方には、お電話で生活の様子をお伝えしている。また、希望があれば携帯電話の所持してもらいいつでも電話が掛けれる環境にしたり、電話をお貸しできるようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 季節が分かるような飾りや、散歩などで摘んだ四季に応じたお花を生けて頂いたりしている。湿度計、温度計により空調の調整を行っている。できるだけ自然の風を感じられるように窓を開け、調節している。</p> <p>(外部評価) 玄関には生花を活け、かごには柿や栗等、季節のものを飾っていた。居間のテーブルにも生花を活けている。台所からは、食事ができる匂いがしていた。1階は、廊下から外に出られるようになっており、一角に菜園を作って春に採れる豆を撒いていた。日中は、明るい空間で過ごせるよう環境を作っており、調査訪問時には、窓からの採光と照明も点けていた。南面の窓を背にソファを配置している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) ご本人同士のトラブルが起こりそうな時には、職員が直ちに仲に入り関係性の修復に努めている。リビングにソファを置き、くつろいで話ができるような居場所づくりをしている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) ご本人の慣れ親しんだ家具や昔から使われていたなじみの物や写真、アルバムを持ってきて頂き、環境変化がないよう配慮している。</p> <p>(外部評価) 居室入口には、家族等と一緒にデコレーションしてつくった名札を、個々の目線の高さになるよう配慮して付けている。タンスに衣類名を表示して、自分で整理したり、更衣したりできるようにしている。鏡台の前に化粧道具を用意して化粧する方や、亡きご主人の位牌と写真を持ち込んでいる方の居室が見られた。ベッドは、利用者の状態や居室の環境に合わせて配置を決めている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 各居室の表札のデザインを考えて、ご本人、ご家族、職員、ボランティアと一緒に作りました。その際、表札の高さを考えて、一人ひとりの目線の高さを確認するなどの工夫をして設置している。</p>	